



MONTHLY

かわせみ通信

5月号

2015年5月

Vol.69

発行所

株式会社 東海テクノ

本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)

TEL.059-332-5122(代) http://www.tokai-techno.co.jp

蚊の対策は万全に ~暑い夏の黒いプレデター~

1987年に1作目が公開され、続編がいくつも登場している人気のSFアクション映画「プレデター」。彼らは「暑い年に現れて人を狩る悪魔」と称される設定だが、今年は「暑い年に現れて人を40℃に達する高熱や、治りにくい関節痛で苦しませる悪魔」に注意が必要である。近年は、上空を流れる偏西風の南側を中心に高温傾向となっていることや、太平洋赤道域の海面水温が高い影響で大気全体の温度が高くなって暑い夏になりやすい傾向がある。気象庁の先月発表の暖候期予報によると、今夏は関東甲信や北陸、東海でかなり暑い夏になりそうだとのこと。先月27日、全国にあるアメダス地点の約6割で最高気温が25度以上の夏日となり、北海道では帯広など数地点で30度以上の真夏日に。北海道で4月に真夏日となるのは17年ぶりという暑さを記録した。奇しくもその翌日の28日、

厚労省は夏に先駆けて「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針」を策定して同日より適用した。昨年8月、デング熱に国内で感染した患者が約70年ぶりに報告されたことは記憶に新しい。このデング熱も、現在ワクチンや特異的な治療法は存在せず、デング出血熱と呼ばれる重篤な症状を呈する場合もありもちろん脅威ではあるが、指



時折見かける白スジの黒い蚊にご注意あれ

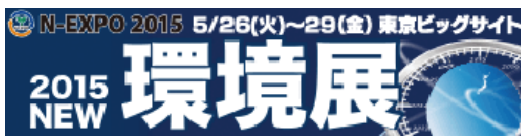
針において今夏最も警戒を強めているのはチクングニア熱だ。このチクングニア熱はもともと熱帯の暑い地域においてネッタイシマカに刺されることで伝播する感染症であったが、日本では記録的な猛暑となった2007年に初めて感染が確認された。インド洋の島国レユニオンでは、2006年に人口78万人のほぼ3分の1に当たる約26万人が感染、219人が死亡しているが、集団感染で分離されたウイルス株はヒトスジシマカによって媒介される能力を獲得したことが確認されている。ヒトスジシマカは「ヤブ蚊」と呼ばれる蚊の一種で、日本では盛岡以南ではどこでもいる蚊である。国立感染症研究所が指針と同時に地方公共団体向けに作成した「デング熱・チクングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き」は、今年は職場の安全衛生委員会必読の書になる可能性もある。



教えて！
かわせみ先生

浄水器の活性炭と消臭用の活性炭は同じもの？

活性炭と言っても、実は様々な種類があって、浄水用、空気・ガス浄化用、溶剤回収用、触媒用、医療用など原料や形状、性能から用途が決められて販売されているんだよ。特に飲料水の浄水器用として使用するためには40項目にも及び浸出試験等の規格に適合することが求められているんだ。水道水が浄水場から家庭まで運ばれてくる間の様々な配管、ろ材、シール材等は「資機材」と呼ばれ、どんな小さな部品でも安全安心のため、全て浸出性能試験に合格したものが使われているんだよ。活性炭も同様で、浄水場で使用するものから、家庭の蛇口に取り付ける浄水器等も同様の試験をしているんだ。水道用活性炭は浸出性能試験の他に、吸着性能試験など品質規定も定められていて、当社でもこれらの試験をしているよ。だから、浄水器で使う活性炭は水道用と記載されている活性炭だけが使えるんだ。



今年も2015年5月26日(火)~5月29日(金)の4日間、東京ビッグサイトにて「2015NEW 環境展」が開催されます。「環境ビジネスの展開」をテーマに24回目の開催となります。今年は弊社も名を連ねるタケエグループの富士車輛(株)が「再資源化・廃棄物処理」ブースに出展します。2015地球温暖化防止展も同時開催され、600社を超える出展を誇る、アジア最大級の環境展となります。事前登録にて入場料は無料になりますが、弊社で招待券の手配も可能です。環境分野の今を確認できる年に1度の展示会ですので、情報を入手する良い機会になるのではないのでしょうか。

測ってみよう!
探検隊 Vol.44

**私はエクオールの生産者？
それとも非生産者？**

最近テレビでも取上げられるようになった「エクオール」。これは大豆製品を摂取したあと、腸内細菌の代謝によって生産される女性ホルモンとよく似た働きをする物質で、女性の更年期障害、肌荒れ、乳がん予防や男性の前立腺がん予防、薄毛にも効果があると注目されています。しかし、大豆製品を摂った全ての人が「エクオール」を生産できるわけではなく、日本人では二人に一人という報告もあります。そこで当社社員を対象に尿中のダイゼインとエクオールを測ってみました。結果は下図の通りとなり、ほぼ文献通りの割合でした。子供の頃に大豆製品を毎日摂取していた人は生産者である割合が高いことがわかってきています。しかし、近年の日本の食生活は欧米化に伴い、大豆から離れてきているため、生産者の割合が減ってきているようです。

生産の可能性が
ある者 8%

非生産者
50%

生産者
42%

図・社内のエクオール
生産者の割合
(対象：25名)

大豆製品 20g 接種後、12 時間後に
尿を採取し、前処理後 HPLC 測定

社員プチコラム

内田 芳裕 (本社 総務部主任)

風薫る新緑の季節になり、本格的に歩き始めた娘を連れて、先日公園デビューをしてみました。最近、動物に興味があるようなので、手始めに近くにある南部丘陵公園の小動物園へ。シカやヤギなどを見て、ウサギやモルモットとも触れあい、広い場所をのびのびと歩き、娘も満足していたように思います。インドア派で休日を外で過ごすことをあまりしてこなかった私ですが、外出するのも良いなと改めて感じた1日となりました。



編集後記

前月(4月号)でご紹介した補助金について、実は4月22日には受付が終了してしまいました。12月までの公募期間があったにもかかわらず、発表されてから約1ヶ月で終了した形となります。しかし、その後も類似の補助金制度は続いて出ております。今後は事前に検討いただき準備を進めておいたほうがよいのかも知れません。そのような場合は、ぜひご連絡をお待ちしております。(たくほん)

